

乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(小児科定点、インフルエンザ定点)

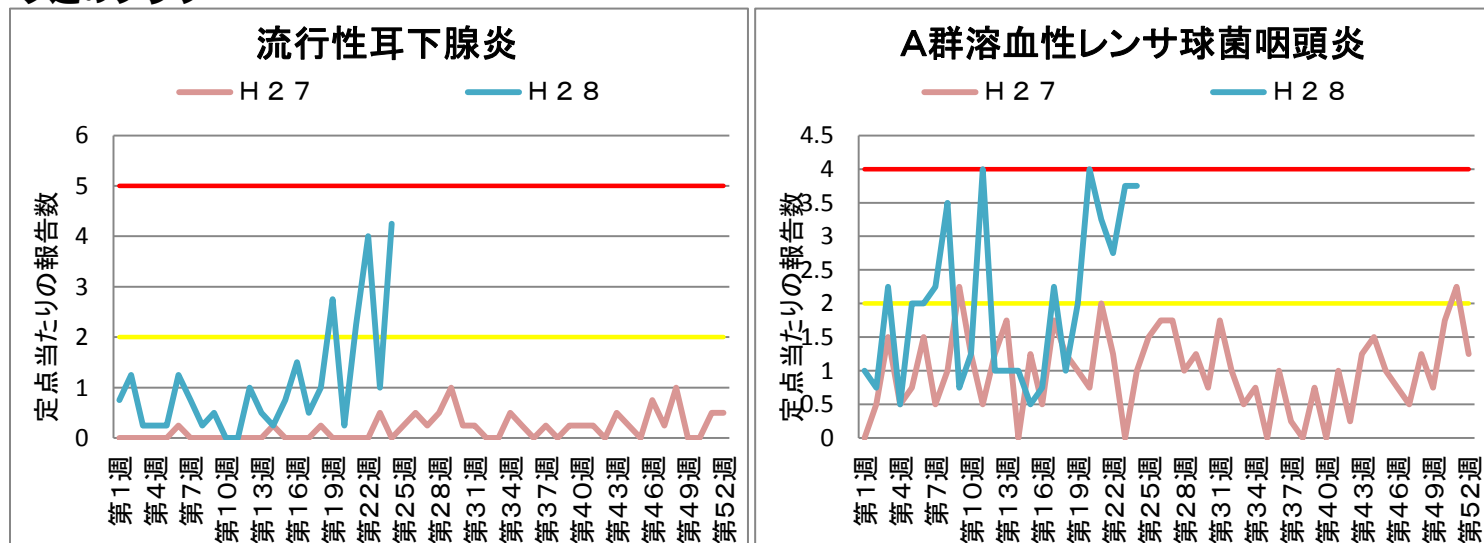
第 24 週 平成28年6月13日 ~ 平成28年6月19日

今週のコメント

○流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の報告が再増加しています(定点当たり4.25件)。保育所・幼稚園の欠席者情報収集システムでも、今週(6/20~)に入ってから流行性耳下腺炎の報告は減少していません。流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルスの感染を原因とする感染症です。2~3週間の潜伏期を経て発症し、片側または両側の耳下腺の腫脹、疼痛、発熱を主症状とし、3~6歳の小児に多くみられます(約60%)。感染しても症状の現れない不顕性感染が30~35%あるといわれています。発症しても通常は1~2週間で軽快しますが、無菌性髄膜炎、脳炎、難聴、聾炎などの合併症を起こす場合があります。効果的な予防方法はワクチン接種です。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告は先週に引き続き多く、手足口病・ヘルパンギーナの報告も増加しています。感染性胃腸炎の報告は、2週連続で減少しました(定点当たり7.5件)。

今週のグラフ



* 赤線 流行警報基準値です 黄線 警報継続基準値です

今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	-	手足口病	2.75
RSウイルス感染症	-	伝染性紅斑	0.25
咽頭結膜熱	0.25	突発性発しん	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.75	百日咳	-
感染性胃腸炎	7.5	ヘルパンギーナ	3.25
水痘	0.5	流行性耳下腺炎	4.25

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

* 乙訓管内 インフルエンザ定点数：7箇所、小児科定点数（インフルエンザ以外の疾病）：4箇所

参考資料等

報告週対応表

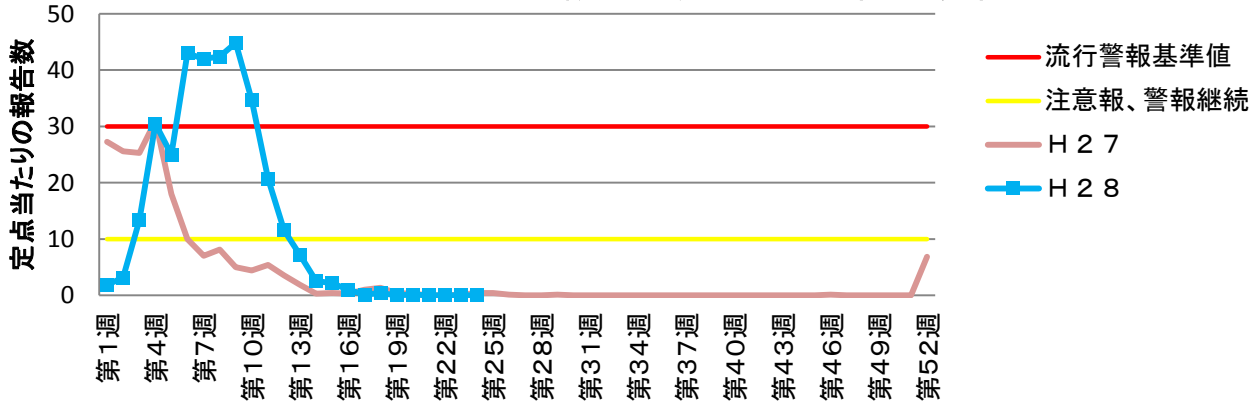
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

警報・注意報基準値の説明

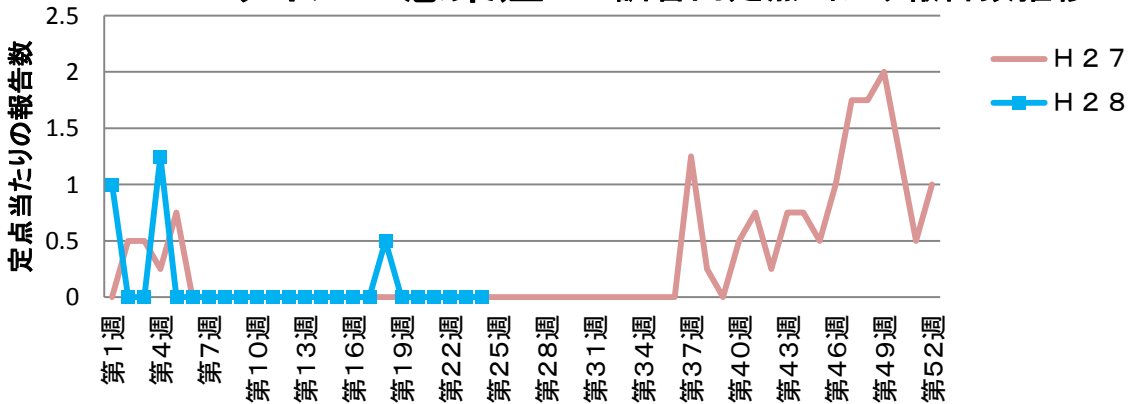
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide03.html>

定点報告による各疾病の推移

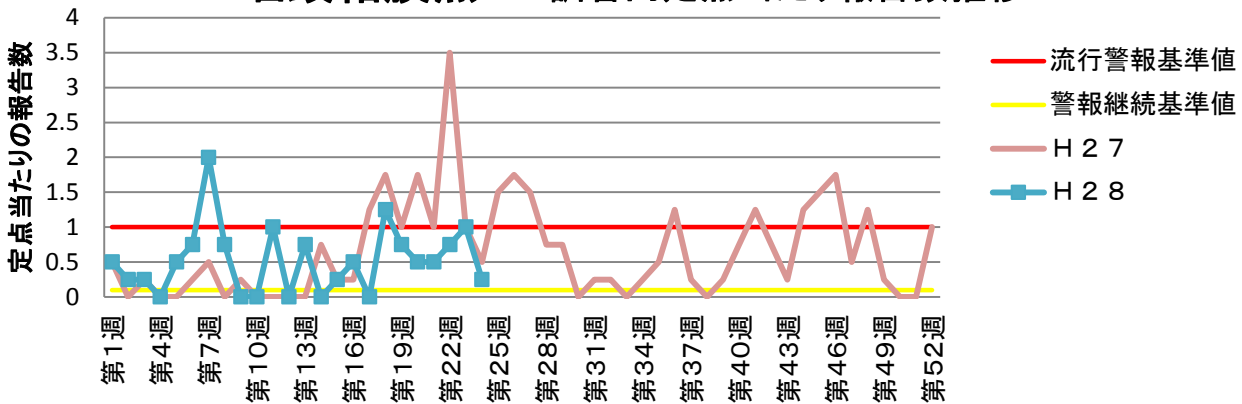
インフルエンザ 乙訓管内定点当たり報告数推移



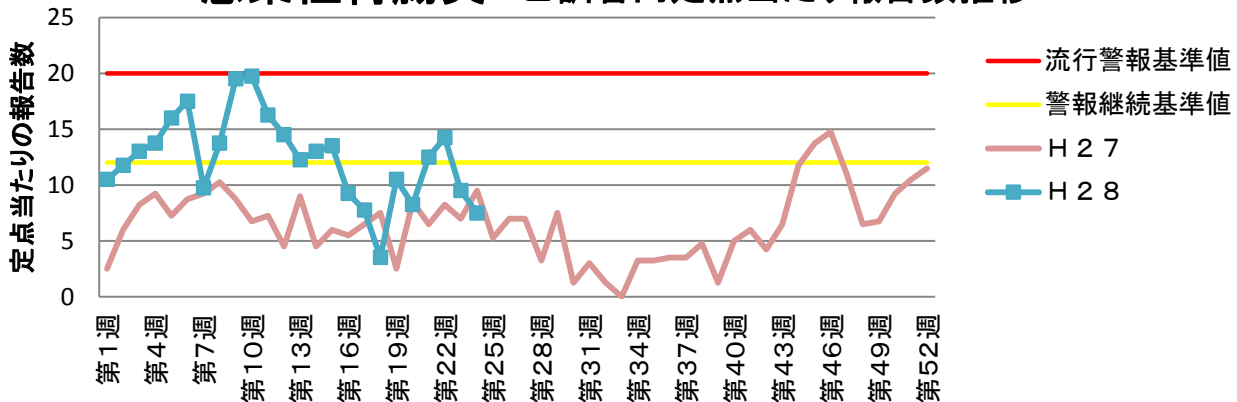
RSウイルス感染症 乙訓管内定点当たり報告数推移



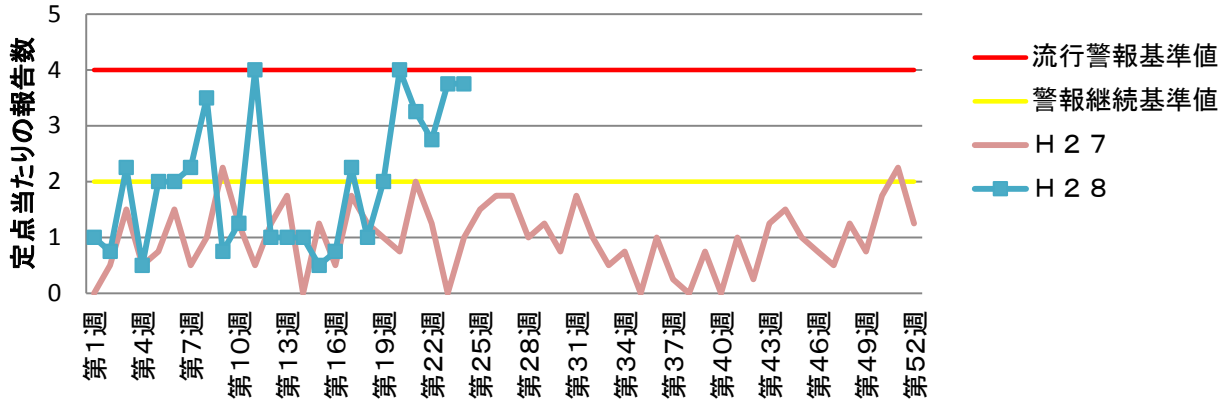
咽頭結膜熱 乙訓管内定点当たり報告数推移



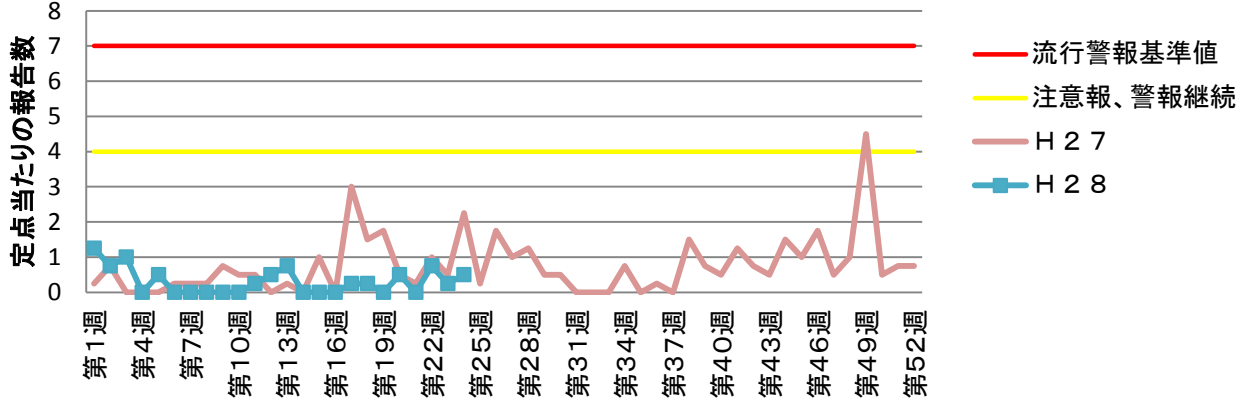
感染性胃腸炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



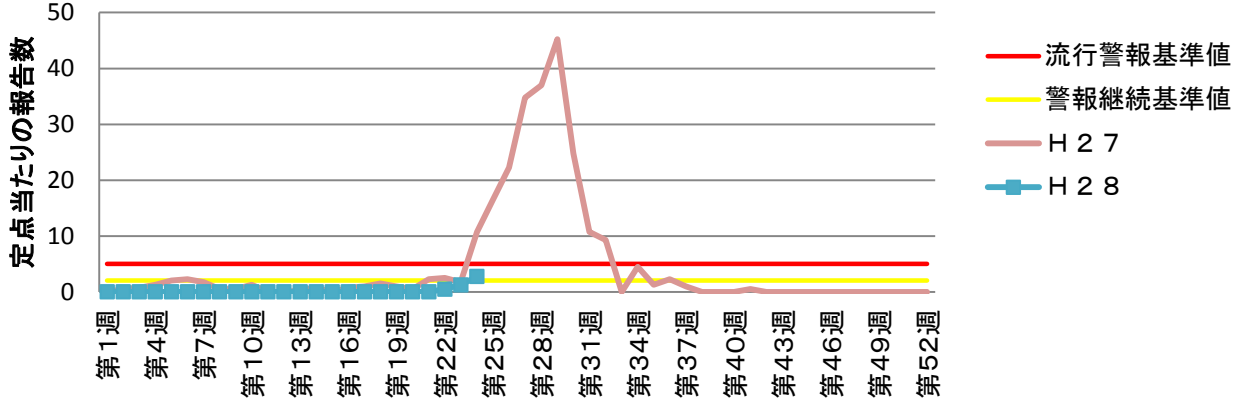
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 乙訓管内定点当たり報告数推移



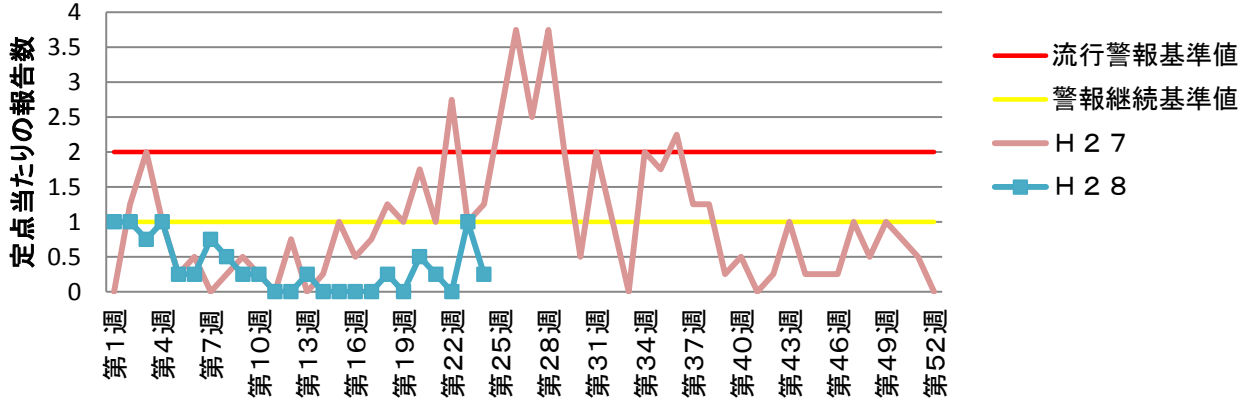
水痘 乙訓管内定点当たり報告数推移



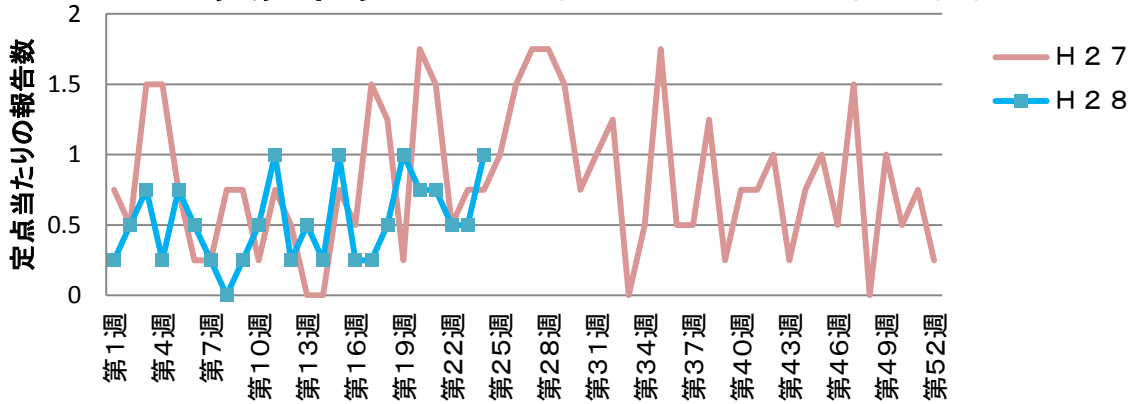
手足口病 乙訓管内定点当たり報告数推移



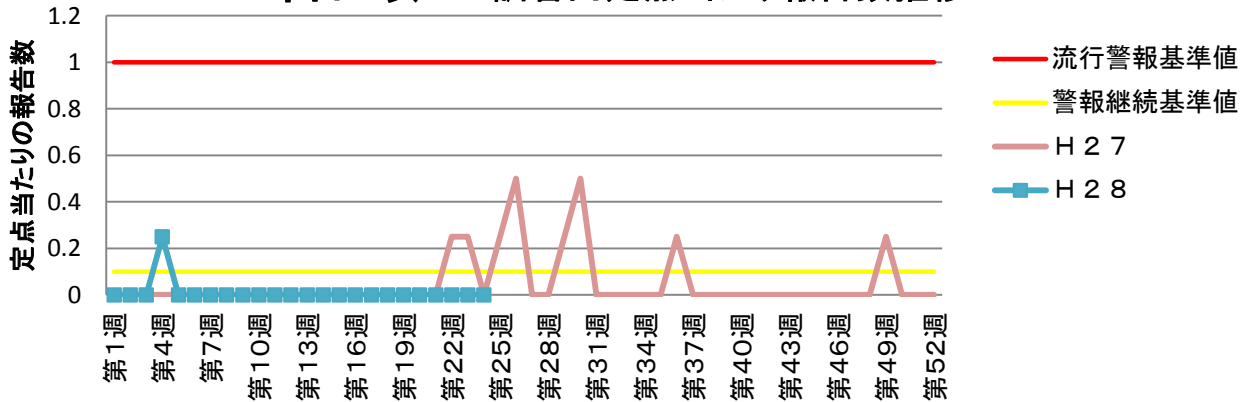
伝染性紅斑 乙訓管内定点当たり報告数推移



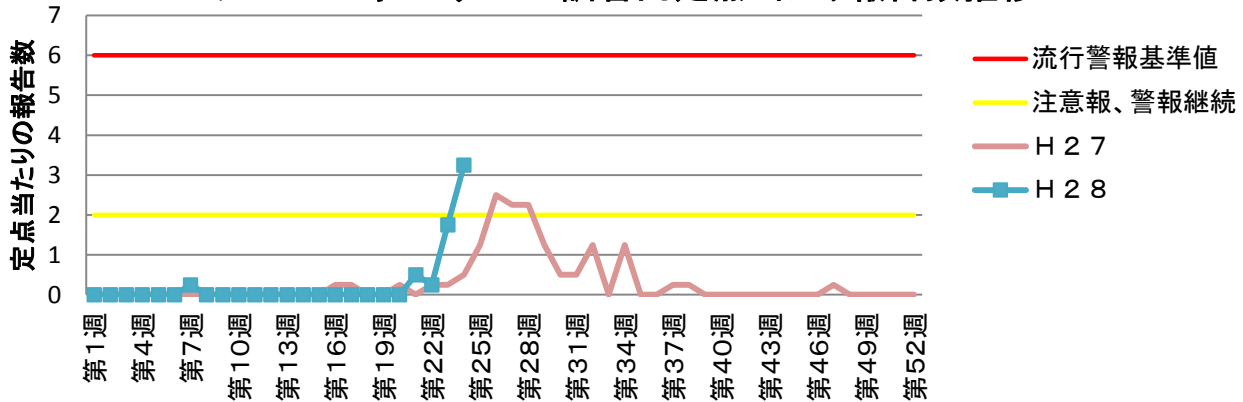
突発性発しん 乙訓管内定点当たり報告数推移



百日咳 乙訓管内定点当たり報告数推移



ヘルパンギーナ 乙訓管内定点当たり報告数推移



流行性耳下腺炎 乙訓管内定点当たり報告数推移

